

導歌百人一首

中井恒治郎編輯

全



中井恒治郎彌將

狂乃戯百人一首

京都 文求堂梓

狂導戯百人一首し叙

中井芳滝先醒があきなりは序子。

板橋の担角をこきり。彼の小倉屋。

そは五七五の換へられ。洒落を。

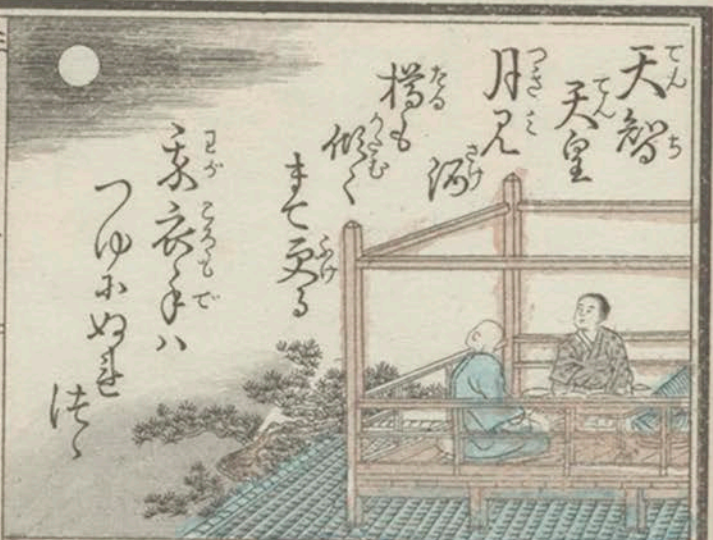
画を身する者。眼を拭む。句をけり。

あは身をけり。新き如葉に。



ハルヒ アキヨ ナガワル
 春の心秋乃夜の長を越え忘るる。
 マタナツ ヒルネ フユ オクツツ
 又夏は昼を味わぬの巨燗より。
 ナクサ フサ
 木慰く種々ありと。柳様乃
 ノミクチ オグラ アン アマクチ
 春は小倉餠乃甘にほる。一り
 ソユ
 涼るそは

苗定老人金馬

テン 天智天皇
 ツキ 月見
 揚も 仰も
 まて 更なる
 コナ 衣
 つゆおぬき



テン 持統天皇
 梵書
 怖る
 僧多相
 衣やすてふ
 アマキタル
 コト

狂歌
 狂歌
 狂歌

梯はし牛うし
人ひと大おほ呂ろ

ふ
ま
あ
あ

い
も
つ
ま
い
ぬ
銀ぎん烟えん愛あい

か
り
お
を
む
と
り
か
も
ね
ん



や
ま
べ
の
あ
う
ひ
と
山やま新あらた赤あか人ひと

あ
は
れ
深ふかくた

あ
が
つ
ふ
い
后ごお
は
あ
く
ア

ふ
二

う
の
雪ゆきハ
津つは
る



猿さる丸まる

ち
ま
ま

程ほどの
い
は
な
者もの

も
も
三
十
日
の
毛け
主ぬし

あ
き
ま
あ
き
ま
あ
き
ま

秋あきは
う
か
し
き



中なかつ納なつ家け持もち

招まねか
切き程ほどの

あ
き
ま
あ
き
ま

あ
き
ま
あ
き
ま

コ
ん
き
バ
あ
そ

あ
き
ま
あ
き
ま



狂きやう導どう戦せん百ひゃく久く一いち首しゆ

仲磨 安倍あべの

たんホ
笑万
あふ

あゝ
裁さいの

三笠の
やま
ふもと

月
の
て



喜こ 撒せん 法ちやう 沙し
へへ 小こ 子し 有あ 智ち 心しん

かろやふ

芳子
ちや
葉



小野をの
小町こまち

夏の旦ゆめよよ

苦くのせ由ゆか

二

何々々々

25/10/20

わづきよ

३३

ちのうん

五



蟬丸

あづを

姑ハ

エ
ヘ
ン

志家也

孝女

Wormwood



冬を識望

坊主の媚妓

まつ毛は山

人あつてもよまのつら松



傍心通照

毛の生るはより

禿化も〜め

乙女の姿あぢ〜とめん



陽成院

涼をまうするは

智恵の法師奴ッ

急ぎはのり

瀬とをうめる



河原太臣

反疲こ

はて

母のどろ

ち〜ち



こ〜れそめあ〜

わきそ〜

まに

光孝天皇

はるるをえん

達磨の經



人

衣

雪

降



中納言行平

髪容ち

留守の所た

す

ゆ

七

事



左原業平

西所切

誰でもあ

う

後原敏行

急の味

夏の

人目



狂言

イ子^い
勢^せ
力

道言

いぢき
て
あか

口

いへや
飛車がなう

あつゝ
けつを

372



元良親王

纓子フナ娘ハナ

終の

字

知舟

卷一

おん
とぞ

ಅ



素性法師

當のとき

うま

老

のち

つづ



有^{あり}明^{あきら}
の月^{つき}
を

まちろくみ



文屋泉秀

櫻下尻

向々糸商

3.



むづ
やまうせ
ふたを

つとむらん

大江千里

花をえるいび

老人いゝるい

ま鹿印の杉まわらわど

菅家

先生は唇間の歌者

いゝけなり

こみぢけりれかゝるまわく



三條右大臣

登のなそ様

かあずふあゝや戸

人ふあゝねゝあるいゝい

眞信

あぢあぢあぢあ

こみ青ふなり

今ひとあゝのゝあさ



中納言兼輔

仲人

娘送る



源宗平

藝妓

押



元河

華表

狐ハ尾

おれたま

壬生

片手

ねえ

喧斗



坂上の
是れ
本枯しも
こゝろと
こゝろと
こゝろと
こゝろと
こゝろと
こゝろと



来り列樹
香と
長者
喉ア丸を
あつね
あつね
あつね
あつね



紀友幻
るまの次
尼の少
あつね
あつね
あつね
あつね
あつね
あつね



友原奥風
あつね
あつね
あつね
あつね
あつね
あつね
あつね
あつね
あつね



紀元之

仲人の

囁く

おハ

あは

あは

花ぞむくし
あふむひう



清原
源孝父

提灯の

言ひ

あは

雲のいづこ
月やしらん



文屋の康

あは

あは

死に破る

はなぬ

あは

あは



右近

迎定の医者

あは

人の命は

あは

あは

あは



参祇等

月参ふだこのも

参の園海なる

たまうてぢどう人の参き

平参盛

間をわと現ふ参子の参が初参

めしちあひやと

人のとふまぐ



壬生忠見

まぐおめ娘

うらふ叫れ

人あきど

こそわりの

初め



清原元補

さくさく

うら

かふぬ

そのかみ

まのまの

なまき



中納言致忠

嫁とて

歯

やうと二三枚

昔ハ

このを

おひらき

うと



中納言

致忠

奇ハ

紙とて

おますと

人とも

うみち



古事記

謙徳公

嫁とて

おひらき

牙は

やうと二三枚



る根好

出

あるもの

は

おひらき

あ

おひらき



あま法沙
詩人もあふと

初まふか過ぎ者

斗とせうとく子秋は事

源重之

石塔の石あやと

かゝる后あはれ

さけそ相をわのふに



大中臣能宣親臣

外月咄々

下女なる男

豊に消つ物をこそあり

及原義孝

記念ふけむろ

なぐさか牙あけり

長もがれとありむるうみ



おどろおどろ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

仲のよき連を

女房様くまひ

さうも
あうま

こゆる
かりい



あふあふ
あふあふ
あふあふ

救世
さうも

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ



おどろおどろ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ



おどろおどろ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ

あふあふ
あふあふ
あふあふ



おどろおどろ

十四

大納言 狂

先生

いりて

鉢のまゝぬ

あ

わがわがなうわ

わがわがなうわ



和泉

式部

坊主持ち 奇案

尻ふり



いりて

わがわが

わがわが

わがわが



はな 式部

あるゆゑふ

案 後おの

あかききあ 新半の月うふ

大貳三

テモ 憎ひ仕おとねむ程

いぢぢよんを

わをんやえをる



赤深清の

くが惚るすでの

鏡屋もあきあき

似くとの月をみるか



小式部内侍

痒いあさすの

とすす未嫁後家

すがあともるはわまはらう



候勢大捕

うそとれ

果報ハ

付生

ずめう

うふあき

あはひゆる



清少納言

顔をアギヤ

いのが母の

ふた

そふ

逢坂の

せむ

ゆめ



たふちま

道程

和尚さん

候へたる

多量

地獄

人ほなむ

いふとむが那



檀中納言

かんあんを

する元

候ふ

見付れ

あな

こた

せむ 細代本



相模

爺

そとさめ

ま見え

蔵の肉

意ふくら

みん

危しき



前大僧正

頭大僧正

周ふみ

ま

き

わく

き

き



句主 藤村 一翁

周防

肉侍

多小

妙を

おのひさる

甲斐あくらん

そそ惜しけれ



三條院

くひみくくおろ

そのと清

おのひさる

おのひさる

おのひさる

おのひさる



能因法師

備をを

子の若小社

龍田の河乃あき

良還法師

淋しう

くはを大々い

いけも河



狂尊殿百人一首

廿九

裕子 内祝 日象 紀伊



下女承知はるる

五つふもぢ死水

樹や社のゆきふりぢまふ

大納言経信

乃ふ 若くこそ

らぬとす 鋤くぢ



源俊親親臣

多福

廣門の母よ

若を

うける

もげ

うきとら

いのねとよ



曲輪風ふうとて 前中納言匡房

ふがをす川

かふのうす

たふのわづ形ん

友原素俊

長は附合ひ

今小糸之口士

高きよりこれ林といれり

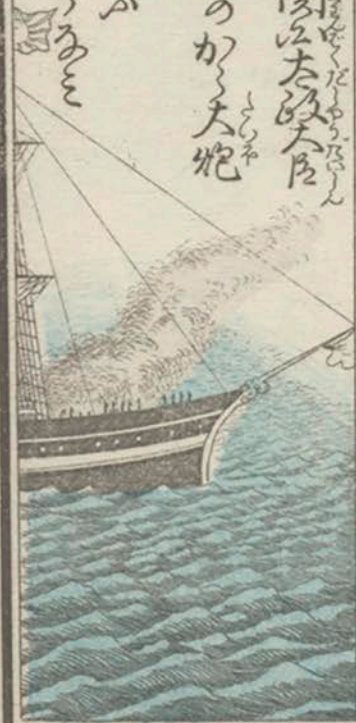


法性寺入る前園は太政大臣

参まはる軍艦のか大蛇

石井よまづか

かきつちるるる



崇徳院

焼つぎや人の麻相で

ゆゑを吟ひ

わさても末はつんとぞあか

源兼昌

泣がした喉小

道人まのり

いゝおぬぎ免の須戸乃実守



左京ちま

歌補

下女の歌
陸立



あらうたり

そわいりる月の
新はうやけさ

侍賢門院堀河

喉ふ又あうねふ

さうずけ

れき

けき

りのを

おし



道因

法師

業しづむ

父を流さの

若ぞ助け

うねよ

たね

なまご

あうき



皇太后又大夫俊成

一すお死ハはろろす

ゆるい

山の妻も麻をなうあり

及原清補船長

串のやまとい肉喰ふ

だけで肉にう

うしとらん せぞろふ高き



俊成法師

猫が糸とふねを

娼妓お糸を曳

松やむきこはきあうまきり

西乃法師

女房買のむし

糸とるへう痛ひ

かゝり影あるふさぎうき



寂蓮法師

仙人の氣て閑花の

ふらふら

あかしのほろ杖乃夕暮



皇宮つ院別業

すこ二人の嬉しむ

狗がさだまゐぬ

此とほくしてゐるやうなづき



式子肉親王

飯たまきは女

くひ

ふと

も



あけがさるの

よりりめをさる

殷富門院

大補

夢人安い

り

もやまのい

ぬき

ぬれ

色



仙道虚人一首



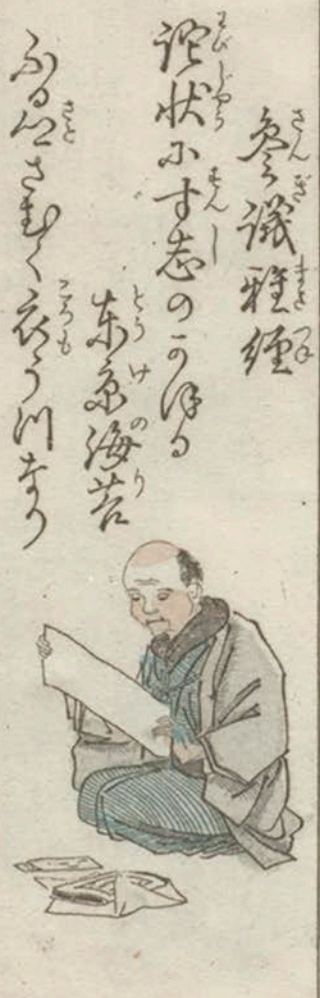
後京極攝政
兼左大臣
かりの世とあめす
わある傍う
いひけ
衣に
印しう
かもぬん



二條院禪枝
爪のやも消え水の
たろ喉入る
人々
あはれ
かき
なま



後倉右大臣
帆柱のつよき
あまの漕あう
うまは少あひのけあでかなうも



冬織雅經
現状ふす志のうけり
あふさむく衣う川さう

前大僧正義春

本魚のまねく
お尚のどくおき

わのたのねはまき深の袖



入道前太政大臣

碑と建てて子おなげぬれ
後家とて

あつゆとものへ
お衣座よりとる



柳樽百首禪定門

檀中納言
室お

帝生を
すくとるといひ

えをすわ

やや

りゆの

座も

こがき



三三三
あや

あや

あや

あや

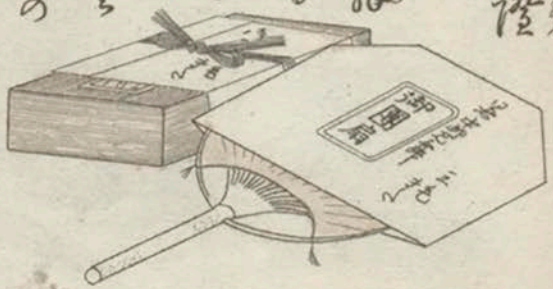
あや

あや

あや

あや

あや



跡見学園女子大学短期大学部図書館



a0010461770a

明治十七年三月十五日出版御届

十四月

刻成發兌

編輯人

京都府平民

中井恒治郎

下京區第五組高宮町
壹番戸

出版人

京都府平民

大島細吉

下京區第十三組八文字町
十六番戸

京都寺町通四條北江入町

發兌書林

田中治兵衛

後鳥羽院

なまぐりぬるが
狗がいそがしい

世を

ゆま

その

おふ

おふ



順徳院

爰の毛も
白成ッ

未

ナア婆ア

あはあま

むく

なる



新編芳樹

明治十七年三月十五日出版御届
刻成發兌

後鳥羽院

なまたうりぬる水乃
狗がいのそが〜い

世を思ふ

ゆゑ

その

おろ

ふい



順徳院

愛の毛も
白成つて

来て

ナア婆ア

ふはあまうり

むく

ある

なる

う



新編芳樹

明治十七年三月十五日出版御届
全 年四月 刻成發兌

編輯人

京都府平民

中井恒治郎

下京區第五組高宮町
壹番戸

出版人

京都府平民

大島 細吉

下京區第十三組八文字町
十六番戸

發兌書林

京都寺町通四條北江入町

田中治兵衛

